技术士交流報告



第32回 技術士全国大会(福岡)参加報告

北海道技術士センター 事務局次長技術士(建設/総合技術監理部門) 植 村 豊 樹

1. はじめに

第32回技術士全国大会は2005年10月18日~21日の4日間の日程で、大陸文化の受入れ口として古くから栄え、日本におけるアジアのゲートウェイと言われる九州・福岡市で開催されました。

昨年の札幌大会でのお礼を含めて、北海道からは 大島支部長をはじめ19名が参加してまいりました。 以下、大会の内容について報告します。

2. 大会の概要

(1) 大会テーマ

大会のテーマは「技の連携・培う地域の新文化」。 産官学の連携によってもたらされる地域産業の発展 は地域の新文化を構築するという理念でした。

(2) 会場

大会は福岡市の中心部にあるホテルニューオータ ニ博多で開催されました。

博多駅は「福岡市」にありながら「福岡駅」でなく、空港は福岡空港、でも港は博多港と言います。 なにかややこしいのですが、その昔に川を挟んで福岡は武家町、博多は商人町で明治22年の市制公布の時から大きくもめてこうなっているそうです。

(3) スケジュール

〈10月18日〉

- ・ 懇親ゴルフコンペ
- ・ウェルカムパーティ:博多湾ディナークルーズ 〈10月19日〉
- 全国大会
- ・レディースコース:門司港レトロ散策 〈10月 20日~21日〉
- ・ テクニカルツアー:鹿児島方面(九州新幹線つ ばめ、知覧特攻平和館、指宿温泉、仙巌園)

3. 大 会

(1) 分科会

大会の中心行事である分科会は、技術士になにができ、何をすべきかを5つの分科会に分けて以下のテーマで話題提供が行われました。

第1分科会「アジアへのかけはし」

第2分科会「環境保全と安全・安心の国づくり」

第3分科会「地域振興と NPO との協働化」

第4分科会「技術者倫理」

第5分科会「青年技術士の活動」



分科会

私が参加した「アジアのかけはし」では、東アジアと九州との経済、人材交流、物流、観光等でさらなる友好関係を築くために環境、食料、エネルギー等で技術交流をしていこう、という発表でした。

北の大地とは違う特性を強く感じさせるものでした。途中退出で、10月にオープンした国内4番目の九州国立博物館(太宰府)に行ってきました。

(2) 記念式典

630名の参加者が勢揃いした厳粛な雰囲気の中で 式典が開始されました。大会宣言では、特にわが国 のアジアワイドの発展に先導的な役割を果たすとい う具体的な技術士活動が述べられました。

(3) 記念講演

九州大学大学院の村上敬宜教授による「水素利用社会実現への課題」というテーマでの講演でした。

枯渇する石油に代わるエネルギーとしての水素エネルギー利用・燃料電池の技術開発が急務である。 水素利用機械システムの統合技術を開発する研究教育組織を設置し体系的な人材育成を行うことを強調されていました。



記念講演

(4) 交流パーティー

会場を移して350名の参加者で行われました。札幌大会に負けず劣らず福岡の新鮮な海の幸をはじめ豪華な料理と今ブームの本格焼酎を味わいながら、博多芸者の艶やかな伝統舞踊などを見て楽しいひとときを過ごしました。



博多芸者の舞踊

来年度大会の本部(東京)への引継ぎ式が行われ、 はっぴ姿の山口運営委員長をはじめとした関係役員 が壇上にあがり参加を呼びかけました。次回の記念 講演は宇宙飛行士の毛利衛さんに依頼中だそうです。

4. 研修旅行

10月20日から1泊2日のテクニカルツアーに参加しました。ツアーのテクニカルな部分は、平成16年3月に部分開業(熊本の新八代駅-鹿児島中央駅)した九州新幹線「つばめ」の開発とその特徴そして鹿児島県の地質について「桜島、カルデラ、シラス台地」について研修してまいりました。

ツアーのおまけ部分(こちらが目玉?)は、小泉首相の靖国神社参拝の原点とも言われた「知覧特攻平和会館」を見学し、同首相と韓国ノ・ムヒョン大統領の首脳会談の会場となった「指宿温泉白水館」の砂むし温泉に宿泊しました。翌日は、鹿児島市内にある「仙巌園」に行き島津の殿様の別邸から湖のような錦江湾に浮かぶ桜島を見てきました。



白水館での宴会

特に印象に残ったのは「知覧特攻平和会館」でした。大東亜戦争の末期、沖縄決戦において爆弾搭載の飛行機もろともの肉弾兵器となって散華した特攻隊員の遺品や遺書を展示していました。北海道出身の特攻隊員が書いた「俺が死んだら何人泣くべ」の遺書を読み、深く心を打たれました。

5. おわりに

大会は天気に恵まれ晴天が続き、10 月末というのに日中の気温が 26°Cもありました。

札幌大会の運営をサポートしていただいた技術士は建設・応用理学系が中心だったのですが、福岡大会の運営(特にツアー)では機械・電気電子系の技術士にお世話をして頂きました。これは、やはり九州の民間市場が豊かなせい?なのでしょうか。